

国語科学習指導案

令和7年9月26日(金)5校時

1年A組36名

指導者 大野 託矢

1 単元名 「Growth mindset プロジェクトI」～1学年の仲間に、お互いの成長のため、1学年に必要なものについてのレポートを、根拠を明確にして書こう～

教材名 「根拠を明確にして書こう」(光村図書「国語I」)

2 単元設定の理由

(1) 教材について

- ・レポートとは、課題に対して仮説を立て、調査して明らかになった内容などについて、客観的な事実を示しつつ、情報を整理して伝える文章のことである。客観的な事実とは、データや数値などであり、レポートを書くときには、それらの情報を整理し、事実と意見を書き分けたり、引用の仕方を正しく守ったりすることが大切である。
- ・本教材ではレポートを書く活動を通して、目的や意図に応じて日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることと、根拠を明確にししながら自分の考えが伝わる文章になるように工夫することを学ぶ。根拠を明確に示すことは、説得力を増し、自分の考えをより効果的に相手に伝えることにつながる。ただし、事実の選択に偏りがないようにすること、事実と意見を結び付ける「理由付け」が適切であることが重要である。また、事実は信頼できる情報源から得た正確なものであるか検討する必要がある。
- ・この単元では、学習者にとって身近な題材である前期の振り返りアンケートなどから課題意識を持たせるため、日常生活から得た題材となる。見つけた課題は自分たちの身近なものであり、学習者同士の共感が得られやすく、読み合う活動への意欲につながる。また、成果物については教室背面のポートフォリオに掲示し、また、「青垣祭」や学校説明会で展示することを伝えることで、学習者の意欲を喚起する。

(2) 学習者について

- ・「書くこと」の学習において、小学生の時に示し方について学習し、中学校でも理科や数学のレポートを書く活動を行っているが、授業前に行ったレディネステストで、正確に引用したり、出典を示せたりした学習者は0%であった。
- ・『「言葉」をもつ鳥、シジュウカラ』という教材で事実と意見、その結び付きについて考えたが、よく理解できていなかった。そのため、「意見と根拠」という教材で「三角ロジック」を使いながら、単純化した例を用いて理解していった。その理解を、根拠を明確にしたレポート作成にいかしていきたい。
- ・学習者にとって前期から後期への移り変わりであるこの時期は、学校生活から課題を見つけ、それを改善する意欲が高まる時期である。よって、お互いの成長のため、1学年に必要なものについてレポートにまとめる活動にも、高い意欲を発揮することが期待できる。

(3) 指導について

- ・指導にあたっては、まず教科書を使って、知識として引用の仕方や出典の示し方、レポートの構成などを押さえる。課題を決める際には、マインドマップを使って、イメージを広げさせる。情報を集める際には、信頼できる情報なのか吟味させ、情報を整える際には意見と根拠などの関係を理解させたい。
- ・集めた情報を整理し、伝えたいことを明確にする際には、三角ロジックを活用し、根拠の解釈を行うことで主張につなげさせたい。指導者が作成したモデルを用いることで、論理というものに気付かせ、自身のレポートに取り組ませる。また、より説得力のある文章にするため、文章を学習者同士で共有して根拠の明確さなどについて助言し合わせたい。
- ・学習者自身、そして指導者が学習者の学びの過程を把握し、学習の調整につなげやすくするよう、単元の初めに単元のゴール・流れ・付けたい力を明示し、視覚化を意識したワークシートを準備する。書き終わったレポートを評価するだけでなく、根拠をより明確にするために練り直す過程を重視し、書く力の伸長につなげる。

単元プランシート(国語科1年)

実施時期 9月

単元名	「Growth mindset プロジェクトI」～1学年の仲間に、お互いの成長のため、1年生に必要なものについてのレポートを、根拠を明確にして書こう～	
単元の目標	お互いの成長のため、1年生に必要なものについて調査し、見つけた課題についてのレポートを、根拠を明確にして書こう。	
評価 規 準	知・技	意見と根拠など、情報と情報との関係について理解している。(情報(2)ア)
	思・判・表	①「書くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。(B書く(1)ア) ②「書くこと」において、根拠を明確にししながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B書く(1)ウ)
	主体	根拠を明確に示すことを粘り強く考え、学習の見通しをもってレポートを作成しようとしている。(学びに向かう力、人間性等)

時間	学習内容	評価計画(●形成的評価・○総括的評価)		
		知・技	思・判・表	主体
1次 3	○学習の見通しをもつ。 ○レポートの体裁や引用、出典の示し方を確かめる。 ○マッピングでイメージを広げ、課題を決める。 ○決めた課題に合った情報を集める。	●ワークシート, 行動観察		●ワークシート, 行動観察
	○集めた材料を整理し、意見・事実・理由付けの関係を見出し、伝えたいことを明確にする。 本時		①ワークシート, 行動観察	
2次 1	○三角ロジックを完成させる。 ○整理した情報から、レポートの項目ごとに、書く内容と順序を考える。	●ワークシート, 行動観察	①②ワークシート, 行動観察	
3次 3	○説得力のあるレポートにするため、表現を工夫する。 ○OCBを活用し、図表などを引用してレポートを書く。 ○引用の仕方に注意して、レポートの構成に沿ってまとめる。	●ワークシート, 行動観察, CB	②ワークシート, 行動観察, CB	
	○引用の仕方や根拠の明確さなどについて助言し合う。		②ワークシート, 行動観察	●ワークシート, 行動観察
4次 1	○助言をいかし、レポートを書き直す。 ○レポートを読み合い、根拠の明確さや、資料を適切に引用できているかなどについて、伝え合う。 ○相互評価を踏まえて、レポートの書き方について学んだことを振り返る。	○ワークシート, 成果物	②ワークシート, 成果物	○ワークシート, 成果物

評価基準(思考・判断・表現について)

B	A
<ul style="list-style-type: none"> ①ワークシートの四の1に事実やデータを取捨選択して書いている。2に、事実の解釈を書いている。3に仮説と結びつける理由付けを書いている。 ②説得力のあるレポートにするために、出典が明らかな資料 	<ul style="list-style-type: none"> ①Bに加え、選んだ事実に信頼性があり、事実の解釈が適切であり、3の理由付けに無理がないよう書いている。 ②説得力のあるレポートにするために、根拠の組み合わせと理由付けの適切さを考えて、自分の考えがより伝わる文章

やデータを引用し、根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。	になるように工夫している。
--	---------------

様式3 本時の指導

(1) 本時の位置づけ (3/8)

(2) 題材 根拠を明確にして書こう

(3) 本時のねらい

説得力のあるレポートにするため、集めた材料を整理し、三角ロジックを用いたモデルから、意見と根拠、理由付けの適切な関係を見出すことを通して、伝えたいことを明確にできるようにする。

(4) 展開

時間	学習活動	学習内容及び指導上の留意点	備考
3分	1 本時の流れとめあてを確認し、学習の見通しをもつ。	○本時のめあてを確認させる。	流れを掲示する。 ワークシート
めあて 説得力のあるレポートにするため、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしよう。			
		○学習の見通しを持たせる。 ○なぜ説得力があるとよいか学習者に考えさせてから、課題を引き出す。	
課題 どうすれば伝えたいことを明確にし、説得力を高められるだろう。			
30分	2 エラーモデルから改善点を指摘し、より説得力を持たせるために必要なことを考える。	○エラーモデルと基になった事実を読み、個人で改善点を考えさせる。(8分) ○エラーモデルの改善点を班で考えさせ、ホワイトボードに記入させる。(10分) ○発表させる。(10分) ○まとめを行う。(2分)	①ワークシート、 行動観察(思判表) 集めた材料を整理する際、伝えたいことを明確するために必要なことを考えているか確認する。
まとめ ○集めた情報を比較し、取捨選択する。 ○集めた情報を示す順序を整える。 ○事実と意見を明確に書き分ける。 ○意見と、それを支える根拠の関係を適切に結び付ける。			
12分	3 2で学んだことを踏まえて、自分のレポートの伝えたいことを明確にする。	○ワークシートを使って、事実・意見を分けて箇条書きで記述させる。 ○2で学んだことを意識しながら記述させる。 ○7分経過後、班をつくり、助言し合いながら考えを深めさせる。	①ワークシート、 行動観察(思判表) ワークシートの四の1に事実やデータを取捨選択して書いているか、2に事実の解釈を書いているか、3に仮説と結びつける理由付けを書いているか確認する。
5分	4 振り返りをワークシートに書く。	○学習を振り返らせ、次の学習の見通しを持たせる。(3分) ○1~2名を指名し、振り返りを発表させる。(2分)	

(5) 努力を要する学習者への配慮

・机間指導の際、ワークシートを見たり、行動観察したりする中で、主張・事実・理由付けの書き分け方やその適切さにつ

いて助言を行う。

・授業終了時、ワークシートの記述内容を見て、努力を要する学習者には個別に指導する。

(6) 学習記録計画

長月二十六日	GP 根拠を明確にしてレポートを書こう	めあて 説得力のあるレポートにするため、集めた	材料を整理し、伝えたいことを明確にしよう	課題 どうすれば伝えたいことを明確にし、	説得力を高められるだろう	○三角ロジックの例から改善点を指摘しよう	<table border="1"><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr></table>										<table border="1"><tr><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td></tr></table>							<table border="1"><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr></table>										まとめ	<ul style="list-style-type: none">・集めた情報を比較し、取捨選択する・集めた情報を示す順序が整える・事実と意見を明確に書き分ける・意見とそれを支える根拠の関係を適切に結び付ける	○自分の集めた情報を整理し、伝えたいことを明確にしよう	○学習を振り返り、次の見通しを持つ

参考文献

松下佳代(2021)「対話型論証による学びのデザイン」勁草書房